

重度障害の乳幼児をケア 旧小学校に事業所オープン（杉並）

重い知的障害と肢体不自由があるため医療的ケアが必要な「重症心身障害」の乳幼児が通い、発達を促すための支援をする杉並区立の事業所「わかば」が、今月、JR 荻窪駅近くの旧若杉小学校（天沼3丁目）にオープンした。通常の施設では対応が難しい子供たちの通所先を確保するのが狙いだ。

区内には対象となる乳幼児が約30人いるといい、これまでは中程度から重度の障害児を受け入れる区立こども発達センター（高井戸東1丁目）が対応していた。しかし、利用者が増えるにつれ、新しい施設を求める声が出ていた。

「わかば」は廃校となった校舎の一部を区の経費で整備し、社会福祉法人に運営を委託している。看護師や理学療法士らが常駐し、近くにある医療機関と連携して0～5歳児を1日10人まで受け入れている。

区障害者施策課によると、都内の公立施設では港区に類似の施設があるが、小規模だといい、杉並区の新施設のような規模は例がないという。

利用者は数時間滞在して、たんの吸引やチューブによる栄養補給などの医療的ケアのほか、視覚や触覚など感覚を使った遊びなどを通し心身の発達を促していく。1歳前後の乳幼児の場合、保護者にも同席してもらい、担当者が手ほどきをする。

重症心身障害児の場合、親は自宅でつきっきりの対応を迫られ、社会から孤立しがちだ。新施設ではスタッフが親の相談に乗り、家族を精神的にも支える。費用は利用者の1割負担で、上限は最大で月3万7,200円。

（朝日新聞・東京 2015年10月19日）